



福岡県医師会第1607号(地)
平成29年 9月13日

各 医 師 会 長 殿

福岡県医師会
会長 松田 峻一良
(公 印 省 略)

鳥インフルエンザA(H7N9)に関する情報提供について

今般、国立感染症研究所において、鳥インフルエンザA(H7N9)のリスクアセスメントが更新され、厚生労働省より日本医師会を通じて周知依頼がありました。

なお、鳥インフルエンザA(H7N9)に関する情報は、厚生労働省、感染研等のホームページで提供され、適宜更新されております。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知いただき、貴会会員への周知方よろしくお願いいたします。

(参考)

厚生労働省ホームページ「鳥インフルエンザA(H7N9)について」
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000144470.html>

国立感染症研究所「インフルエンザA(H7N9)」
<http://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/a/flua-h7n9.html>

検疫所(FORTH)海外感染症情報
<http://www.forth.go.jp/topics/fragment2.html>

検疫所(FORTH)海外感染症情報「鳥インフルエンザ(H7N9、H5N1)」
<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name54.html>

小郡三井医師会より

感染症対策担当理事 田中泰之
会長 白石恒明

(地Ⅲ116F)

平成29年9月1日

都道府県医師会

感染症危機管理担当理事 殿

日本医師会感染症危機管理対策室長

釜 范 敏

鳥インフルエンザA（H7N9）に関する情報提供について

今般、国立感染症研究所において、鳥インフルエンザA（H7N9）のリスクアセスメントが更新され、厚生労働省より本会に対し周知方依頼がありました。

なお、鳥インフルエンザA（H7N9）に関する情報は、厚生労働省、感染症等のホームページで提供され、適宜更新されております。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知のうえ、貴会管下郡市区医師会、関係医療機関等に対する周知方について、ご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

(参考)

厚生労働省ホームページ「鳥インフルエンザA（H7N9）について」

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000144470.html>

国立感染症研究所「インフルエンザA（H7N9）」

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/a/flu-a-h7n9.html>

検疫所（FORTH）海外感染症情報

<http://www.forth.go.jp/topics/fragment2.html>

検疫所（FORTH）海外感染症情報「鳥インフルエンザ（H7N9、H5N1）」

<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name54.html>

事 務 連 絡
平成 29 年 8 月 31 日

公益社団法人 日本医師会 御中

厚生労働省健康局結核感染症課

鳥インフルエンザ A (H 7 N 9) に関する情報提供について

今般、鳥インフルエンザ A (H 7 N 9) に関して、別紙のとおり国立感染症研究所によるリスクアセスメントが行われ、別添のとおり、都道府県等及び検疫所に対し情報提供しました。

なお、鳥インフルエンザ A (H 7 N 9) に関する情報は、厚生労働省、国立感染症研究所等のホームページで提供され適宜更新されますので、参考としてください。

貴会会員への周知につきましてご配慮の程お願いします。

(参考資料)

別紙：国立感染症研究所「鳥インフルエンザ A (H 7 N 9) ウイルスによる感染事例に関するリスクアセスメントと対応」

別添：平成 29 年 8 月 31 日付自治体向け事務連絡「鳥インフルエンザ A (H 7 N 9) のリスクアセスメントについて」

平成 29 年 8 月 31 日付検疫所向け事務連絡「鳥インフルエンザ A (H 7 N 9) のリスクアセスメントについて」

厚生労働省ホームページ「鳥インフルエンザ A (H 7 N 9) について」

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000144470.html>

国立感染症研究所「インフルエンザ A (H 7 N 9)」

<http://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/a/flua-h7n9.html>

検疫所 (FORTH) 海外感染症情報

<http://www.forth.go.jp/topics/fragment2.html>

検疫所 (FORTH) 海外感染症情報「鳥インフルエンザ (H 7 N 9、H 5 N 1)」

<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name54.html>

事 務 連 絡
平成 29 年 8 月 31 日

各

都 道 府 県
保健所設置市
特 別 区

 衛生主管部（局） 御中

厚生労働省健康局結核感染症課

鳥インフルエンザ A (H 7 N 9) に関するリスクアセスメントについて

今般、国立感染症研究所において、別紙のとおり、鳥インフルエンザ A (H 7 N 9) のリスクアセスメントが更新されましたのでお知らせします。

(参考資料)

別紙：国立感染症研究所「鳥インフルエンザ A (H 7 N 9) ウイルスによる感染事例に関するリスクアセスメントと対応」

厚生労働省ホームページ「鳥インフルエンザ A (H 7 N 9) について」

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000144470.html>

国立感染症研究所「インフルエンザ A (H 7 N 9)」

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/a/flua-h7n9.html>

検疫所 (FORTH) 海外感染症情報

<http://www.forth.go.jp/topics/fragment2.html>

検疫所 (FORTH) 海外感染症情報「鳥インフルエンザ (H7N9、H5N1)」

<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name54.html>

事 務 連 絡
平成 29 年 8 月 31 日

各検疫所 御中

健 康 局 結 核 感 染 症 課

医薬・生活衛生局生活衛生・食品安全企画課
検 疫 所 業 務 管 理 室

鳥インフルエンザA(H7N9)のリスクアセスメントについて

今般、国立感染症研究所において、別紙のとおり、鳥インフルエンザA(H7N9)のリスクアセスメントが更新されましたのでお知らせします。

(参考資料)

別紙：国立感染症研究所「鳥インフルエンザA(H7N9)ウイルスによる感染事例に関するリスクアセスメントと対応」

厚生労働省ホームページ「鳥インフルエンザA(H7N9)について」

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000144470.html>

国立感染症研究所「インフルエンザA(H7N9)」

<http://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/a/flua-h7n9.html>

検疫所 (FORTH) 海外感染症情報

<http://www.forth.go.jp/topics/fragment2.html>

検疫所 (FORTH) 海外感染症情報「鳥インフルエンザ(H7N9、H5N1)」

<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name54.html>

鳥インフルエンザ A(H7N9)ウイルスによる感染事例に関するリスクアセスメントと対応

2017 年 8 月 31 日更新

国立感染症研究所

背景

今回、中国における鳥インフルエンザ A(H7N9)ウイルス感染症の第 5 波（2016 年 10 月 1 日以降）におけるヒトの報告数がピークを越えて減少傾向に転じたこと、及び高病原性鳥インフルエンザ A(H7N9)ウイルスに感染した患者数の報告を受けて、リスクアセスメントをアップデートする。今後も、事態の展開があれば、リスクアセスメントを更新していく予定である。

疫学的所見

1) 事例の概要

- 最初の鳥インフルエンザ A(H7N9)ウイルス（以下、H7N9 ウイルス）に感染した患者は、2013 年 3 月に中国から WHO へ報告された。以後、2017 年 7 月 25 日現在までに、中国本土からの報告例、もしくは中国本土に滞在歴があるか、中国本土から輸入した家禽との接触歴のある台湾・香港・マカオ・マレーシア・カナダからの患者を含め、1557 例が報告されており、うち少なくとも 605 例(39%) が死亡している。患者の発生は、中国での冬季にピークを示し、2013 年から現在までで 5 つのピークを認めている。第 5 波（2016 年 10 月 1 日～）は、第 1～4 波に比較し、感染者数、地理的広がり共に規模が大きかったが減少傾向となっている¹（図 1 参照）。
- 中国から WHO に報告されたデータによると、第 1 波の患者数は 135 例、第 2 波は 320 例、第 3 波は 226 例、第 4 波は 119 例と報告されている²。また、第 5 波については、ECDC のみ具体的な人数を公開しており、2017 年 7 月 13 日の時点で、758 例（2016 年疫学週第 41 週～）と報告されている³。
- 中国の研究グループによる、2013 年 2 月～2017 年 2 月に報告された 1220 例の確定例の解析によると、第 4 波や第 5 波では、第 1～3 波に比べ準市街地や農村地域からの報告が多かった⁴。また、年齢分布では、第 1 波では、60 歳以上の報告の割合が多かったが、第 5 波では 16～59 歳の割合が増加していることが分かった。しかし、性別、家禽への曝露歴の有無、入院患者の重症度、については、これまでの流行期と変わっていないことが報告された。本研究による中国本土からの報告の分布を示す（図 2 参照）。
- 第 1 波から第 4 波では、計 26 のクラスター（少なくとも 2 例以上のリンクのある患者）

を認めた(うち3は院内感染、残りは家族内での発生)⁵。第5波では、これまでに7つの省または市、自治区(安徽省、江蘇省、河北省、浙江省、陝西省、チベット、北京市)から計10のクラスターを認めている^{6,7-11}。このうち4つのクラスターでは家庭内での接触による感染が疑われているが、生鳥への接触歴を認めているため⁸⁻¹¹、鳥への共通曝露も否定できない。これまでに、3次感染例は認めていない。

- Chinese National Influenza Centerによると、2017年8月14日の時点で、広東省、湖南省、広西チワン族自治区、台湾(広東省への旅行歴あり)から計25例の高病原性H7N9ウイルス感染症(HPAI)の患者が報告されている¹²。
- 2016年9月1日～2017年3月31日の期間に広東省(2例)、湖南省(1例)、広西チワン族自治区(5例)で検出された8例と中国全土から検出された低病原性H7N9感染症(LPAI)553例を比較した研究によると、HPAIの方が、田舎に在住、病鳥・死鳥との接触歴があり、また、発症から入院までの期間が短い傾向にあった¹³。また、2016年11月1日～2017年3月31日の期間に広東省で検出されたHPAIの9例とLPAI感染症の51例を比較した研究によると、入院期間はHPAIで長い傾向にあったが、臨床症状や転帰に差は認めなかった。また、病鳥或いは死んだ鳥への接触が最大のリスク因子であると考察されている¹⁴。

2)臨床情報

- これまでの報告から、潜伏期間は多くが3日～7日(最長10日)と推定されている¹⁵。
- 発熱、咳嗽、呼吸困難、頭痛、筋肉痛、全身倦怠感などの症状が出現し、患者の多くは、重症肺炎の病像を呈する¹⁶。一方で、軽症から中等度の病像を呈し、インフルエンザ様疾患に対する病院定点サーベイランスで探知された報告もある¹⁷。
- 死亡10例と生存30例を比較した疫学研究によると、死亡のリスク因子として高齢、慢性肺疾患、免疫不全状態、長期の投薬歴、オセルタミビル投与の遅延(生存例で発症から治療までの中央値で4.6日、死亡例で7.4日。両群ともオセルタミビル感受性あり)が報告されている¹⁸。
- H7N9ウイルス感染症に関して、リアルタイムRT-PCR法による呼吸器検体を用いた検査が推奨されている¹⁹。

3)感染源・感染経路

- 調査が可能であった第5波(2016年9月～同年12月)の97例中、87例(90%)では、鳥への接触歴があり、そのうち72例(83%)が生鳥市場への訪問歴があった。対応として、広東省、浙江省では都市部での生鳥の取引を禁止し、食鳥処理場は集約化されている。また、江蘇省や安徽省などの多くの患者が報告されている地域でも生鳥市場を禁止するなどの対応がとられている⁶。

- 広東省から報告された HPAI 2 例と台湾から報告された HPAI 1 例からノイラミニダーゼ阻害剤に対して低感受性を示すウイルス遺伝子変異が検出されている²⁰。いずれの患者でも検体採取前に抗ウイルス薬が投与されており、二次感染は発生していない。また、全ての患者が治療抵抗性であったわけではなかった。
- 第 5 波で、ヒト感染例の報告が急増した原因の一つとして、生鳥市場や生鳥に関連する環境からのサンプル中の H7N9 ウイルス陽性率の増加が 2016 年の 12 月に認められ、以前の流行より相対的に早かったことが示唆されている¹³。患者が多く報告されている地域では、飼育鳥に関連する環境中のウイルス検出数が多く報告されている（図 3 参照）。2017 年 2 月 22 日から 28 日に広東省の 9 都市 27 か所の市場で行われたサンプリング調査において、855 検体が採取され、83 検体（10%）が H7 陽性であった²¹。なお、これまでに、中国本土の野鳥からも H7N9 ウイルスが検出されたことが報告されている²²。

ウイルス学的所見

- 2013 年に中国で初めてヒト感染事例を引き起こした H7N9 ウイルスは少なくとも 3 種類の異なる鳥インフルエンザウイルスの遺伝子再集合体であると考えられ、家禽に対して低病原性を示し、ヒトに感染すると重篤な症状を来し得ることが報告されている。第 4 波までに分離されたウイルスは全て家禽に対して病原性が低い低病原性ウイルスであったが、第 5 波では患者および生鳥市場の鶏や環境から家禽に対して高い病原性を示唆する変異を有したウイルス(高病原性ウイルス)が分離されている。高病原性ウイルス変異株も含め、H7N9 ウイルスは、継続的にヒトーヒト間で感染伝播するような能力は獲得していない^{13,23-25}。これまでのところ、高病原性ウイルスの出現でヒトに対する疫学的パターンに変化がみられた証拠はなく、低病原性ウイルスから高病原性ウイルスへの変異により、ヒトでの病原性や感染力に影響を及ぼすという科学的な根拠は認められていない²⁶。これまでに分離された低病原性ウイルスの主な遺伝子解析所見については、2014 年のリスクアセスメントに記載している(<http://www.nih.go.jp/niid/ja/flu-m/flutoppage/2276-flu2013h7n9/a-h7n9-niid/4519-riskassess-140328.html>)。
- 米国 CDC の報告によると、GISAID に登録された第 5 波のヒト感染例および生鳥市場環境から集められた 74 株の H7N9 ウイルスの HA 遺伝子の塩基配列解析から、遺伝子系統樹では大きく 2 つのクラスターに分かれ（Pearl River Delta 群と Yangtze River Delta 群）、そのうち 93%（69 株）は Yangtze River Delta 群に属することを明らかにしている²。
- WHO インフルエンザ協力センター（米国 CDC, 米国 St Jude 小児研究病院）で実施された抗原解析の結果、Pearl River Delta 群に属するウイルスは WHO が推奨する 2013 年のワクチン候補ウイルスと抗原的に類似しているが、流行の主流となっている

Yangtze River Delta 群に属するウイルスはワクチン候補ウイルスから抗原性が変化しており、この群から新たに 2 株のワクチン候補株 (A/Guangdong/17SF003/2016-like virus, A/Human/2650/2016-like virus) が作製されることになった²⁷。

日本国内の対応

- 2013 年 4 月 26 日、「鳥インフルエンザ (H7N9) を指定感染症として定める等の政令」(2013 年政令第 129 号)、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行令の一部を改正する政令」(2013 年政令第 130 号)、「検疫法施行令の一部を改正する政令」(2013 年政令第 131 号) 等が公布され、鳥インフルエンザ A (H7N9) は指定感染症に定められた。それに伴い、2013 年 5 月 2 日付の厚生労働省通知により、38℃ 以上の発熱及び急性呼吸器症状があり、症状や所見、渡航歴、接触歴等から鳥インフルエンザ A (H7N9) が疑われると判断した場合、保健所への情報提供を行い、保健所との相談の上、検体採取 (喀痰、咽頭拭い液等) を行うこととなった。2015 年 1 月 21 日、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項及び第 14 条第 2 項に基づく届出の基準等について」(2006 年 3 月 8 日健感発第 0308001 号厚生労働省健康局結核感染症課長通知) の別紙「医師及び指定届出機関の管理者が都道府県知事に届け出る基準」の一部が改正され、鳥インフルエンザ A (H7N9) を指定感染症として定める等の政令が廃止された。現在、鳥インフルエンザ A (H7N9) は二類感染症に定められている。二類感染症に追加後の対応に関しては、鳥インフルエンザ A (H7N9) に感染した疑いのある患者が発生した場合における標準的な対応において変更はない。

リスクアセスメントと今後の対応

- 夏季に入り、中国の H7N9 ウイルス感染症の患者報告数は減少傾向にあるため、日本国内への患者の流入の可能性も冬季に比べると低くなると考えられる。しかし、H7N9 ウイルスの発生地域へ渡航する際には、生鳥市場への訪問や病鳥との接触を控えるなどの注意喚起は継続すべきである。
- 発生地域において鳥との接触があり、渡航後に発熱を認めるなどの体調の変化があった場合には、医療機関の受診時に渡航歴を伝えることの啓発が必要である。
- 限定的なヒト-ヒト感染があることから、国内に入国した感染者から家族内などで二次感染が起こりうる。
- しかしながら、先に記した疫学的・ウイルス学的所見から、ヒトへの感染が確認されている H7N9 ウイルスは、ヒト-ヒト間で容易に感染伝播するような能力は獲得しておらず、持続的なヒト-ヒト感染の可能性は低いと考えられる。
- 第 5 波では高病原性 H7N9 ウイルスが生鳥市場の環境や家禽から分離され、このウイ

ルスに罹患した患者も報告されているが、現時点ではヒトにおいて病原性が異なることを示唆する科学的根拠は明らかではない。また、これらの高病原性 H7N9 ウイルスによるヒト感染例ではノイラミニダーゼ阻害剤に対し低感受性を示すウイルス遺伝子変異が検出されたが、この抗ウイルス剤耐性は当該患者に対するノイラミニダーゼ阻害剤の前投与により誘導された可能性が考えられる。

- 抗原性の変化しているウイルス群が増えていること、その群に高病原性 H7N9 ウイルスが属していることを踏まえ、WHO は新たに 2 株の H7N9 ワクチン候補ウイルス株を推奨した。
- 感染研は 「鳥インフルエンザ A(H7N9) ウイルス感染症に関する臨床情報のまとめ：臨床像・検査診断・治療・予防投薬」 (<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/a/flu-a-h7n9/2273-idsc/3492-clin-info.html>) を 2013 年 4 月 26 日に、「鳥インフルエンザ A(H7N9) ウイルス感染症に対する院内感染対策」 (<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/a/flu-a-h7n9/2273-idsc/3550-hospital-infection.html>) を 2013 年 5 月 17 日に、「鳥インフルエンザ A(H7N9) 患者搬送における感染対策」 (<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/a/flu-a-h7n9/2273-idsc/4859-patient-transport-mersandh7n9.html>) を 2014 年 7 月 16 日に、感染研ホームページに掲載しているところであるが、今後も WHO、中国等からの情報に基づき、正確な情報を提供していく。

参考文献

1. World Health Organization. Influenza at the human-animal interface. Summary and assessment, 16 June to 25 July 2017
2. Iuliano AD, Jang Y, Jones J, et al. Increase in Human Infections with Avian Influenza A(H7N9) Virus During the Fifth Epidemic — China, October 2016–February 2017. MMWR. 2017;66(9):254–255.
3. ECDC. Communicable Disease Threats Report, 22 July 2017.
4. Wang X, Jiang H, Wu P, et al. Epidemiology of avian influenza A H7N9 virus in human beings across five epidemics in mainland China. 2013–17: an epidemiological study of laboratory-confirmed case series. Lancet infect Dis 2017; 17(8):822-832.
5. Xiang N, Li X, Ren R, et al. Assessing Change in Avian Influenza A(H7N9) Virus Infections During the Fourth Epidemic-China, September 2015-August 2016. MMWR. 2016;65(49):1390-1394.
6. Zhou L, Ren R, Yang L, et al. Sudden increase in human infection with avian influenza A(H7N9) virus in China, September–December 2016. Western Pac

Surveill Response J. 2017;18;8(1):6-14.

7. World Health Organization. Disease outbreak news, 15 March 2017
8. World Health Organization. Disease outbreak news, 18 April 2017
9. World Health Organization. Disease outbreak news, 20 April 2017
10. World Health Organization. Disease outbreak news, 23 May 2017
11. World Health Organization. Disease outbreak news, 28 June 2017
12. Chinese National Influenza Center. Chinese Influenza Weekly Report.
http://www.chinaivdc.cn/cnic/en/Surveillance/WeeklyReport/201708/t20170814_149400.htm
13. Zhou L, Tan Y, Kang M, et al. Preliminary Epidemiology of Human Infections with Highly Pathogenic Avian Influenza A(H7N9)Virus, China, 2017. *Emerg Infect Dis.* 2017;23(8):1355-1359.
14. Kang M, Lau EHY, Guan W, et al. Epidemiology of human infections with highly pathogenic avian influenza A(H7N9) virus in Guangdong, 2016 to 2017. *Euro Surveill.* 2017;6;22(27).
15. Li Q, Zhou L, Zhou M, et al. Epidemiology of human infections with avian influenza A (H7N9) virus in China. *N Engl J Med.* 2014;370:520.
16. Ke Y, Wang Y, Liu S, et al. High severity and fatality of human infections with avian influenza A(H7N9) infection in China. *Clin Infect Dis.* 2013;57:1506.
17. Ip DK, Liao Q, Wu P, et al. Detection of mild to moderate influenza A/H7N9 infection by China's national sentinel surveillance system for influenza-like illness: case series. *BMJ.* 2013;346:f3693.
18. Liu S, Sun J, Cai J, et al. Epidemiological, clinical and viral characteristics of fatal cases of human avian influenza A(H7N9) virus in Zhejiang Province, China. *J Infect.* 2013;67(6):595-605.
19. Interim Guidance for Specimen Collection, Processing, and Testing for Patients with Suspected Infection with Novel Influenza A Viruses Associated with Severe Disease in Humans.
<https://www.cdc.gov/flu/avianflu/h7n9/specimen-collection.htm#diagnostic>
20. World Health Organization. Disease outbreak news, 27 February 2017
21. Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO). H7N9 situation update, 26 July 2017.
http://www.fao.org/ag/againfo/programmes/en/empres/H7N9/Situation_update.html
22. Zhao B, Zhang X, Zhu W, et al. Novel avian influenza A(H7N9) virus in tree sparrow, Shanghai, China, 2013. *Emerg Infect Dis.* 2014;20(5):850-3.
23. Watanabe T, Kiso M, Fukuyama S, et al. Characterization of H7N9 influenza A

- viruses isolated from humans. 2013;501(7468):551-5.
24. Xiong X, Martin S, Haire LF, et al. Receptor binding by an H7N9 influenza virus from humans. *Nature*. 2013;499(7459):496-9.
 25. Tharakaraman K, Jayaraman A, Raman R, et al. Glycan receptor binding of the influenza A virus H7N9 hemagglutinin. *Cell*. 2013;153(7):1486-93.
 26. World Health Organization. Analysis of recent scientific information on avian influenza A(H7N9) virus. 10 February 2017
 27. World Health Organization. Antigenic and genetic characteristics of zoonotic influenza viruses and development of candidate vaccine viruses for pandemic preparedness. March 2017

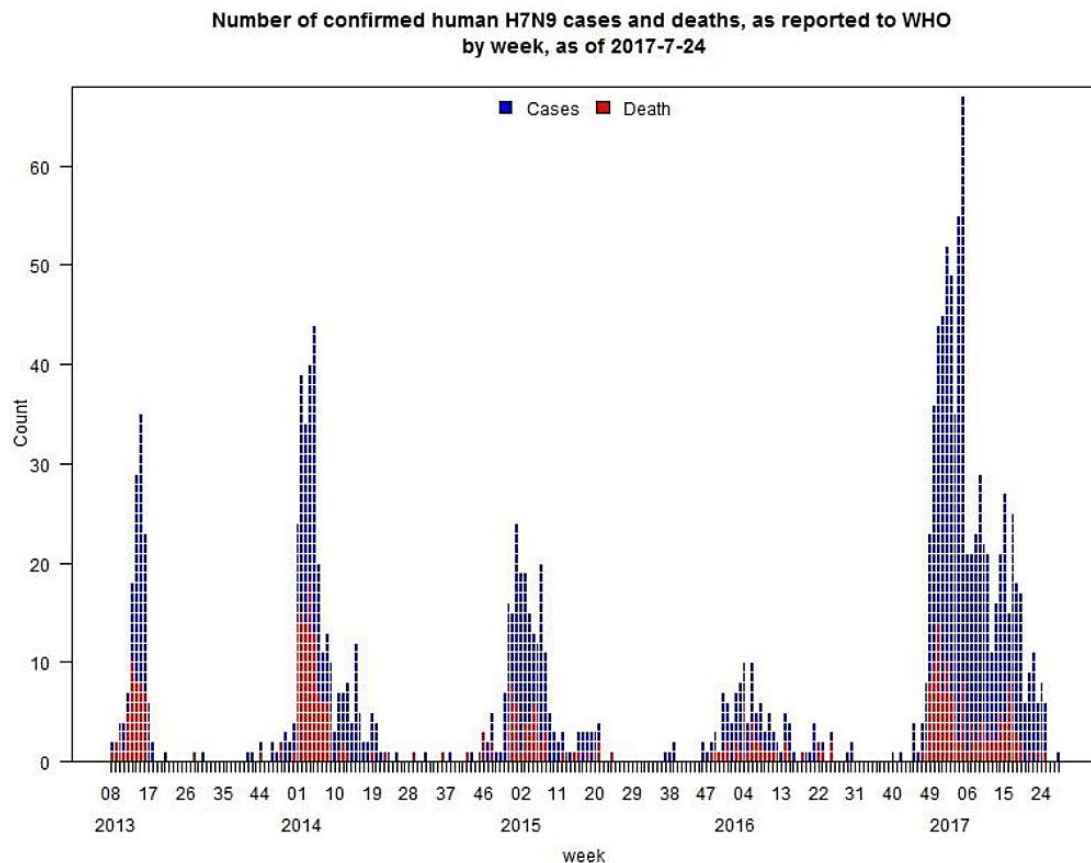


図 1. 鳥インフルエンザ A (H7N9) ウイルスのヒトへの感染例 n=1557 (7 月 24 日現在, 文献 1 から引用)

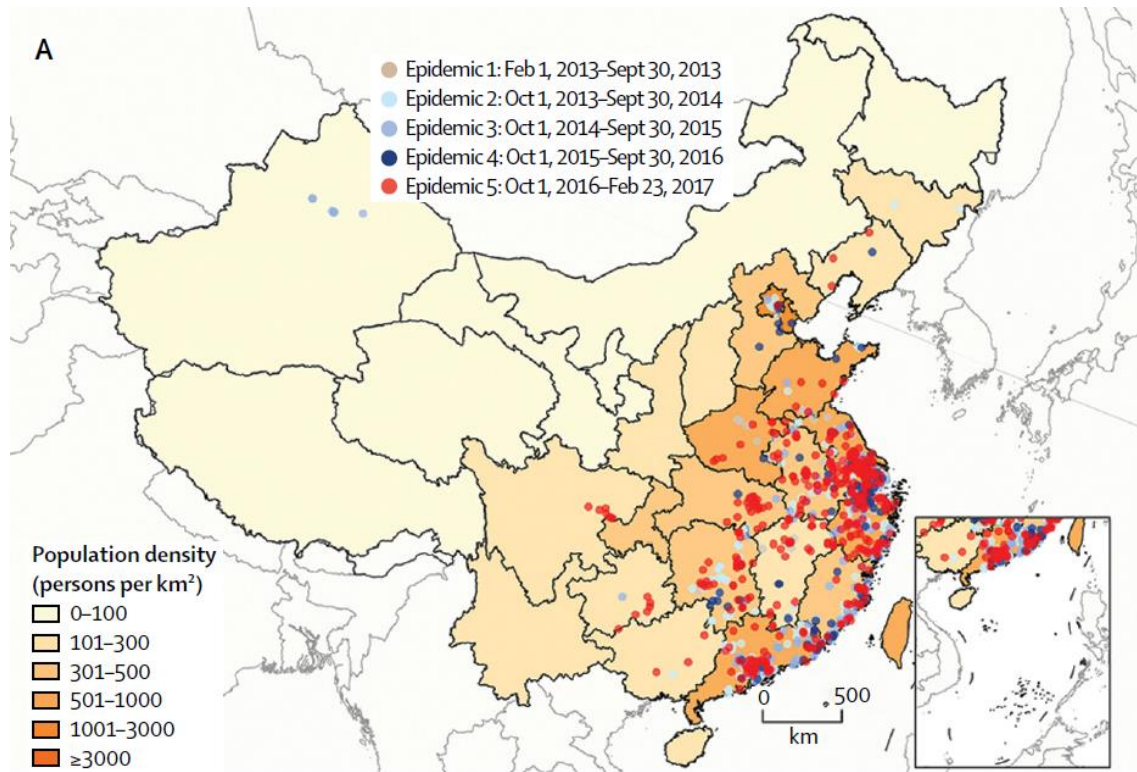


図 2. 中国本土の鳥インフルエンザ A (H7N9) 確定例報告地域 2013 年～2017 年 (n=1220, 文献 4 から引用)



図 3. 中国本土の鳥インフルエンザ A (H7N9) ヒト患者とトリ・環境中の陽性例の報告地域 2015 年 10 月～2017 年 7 月 26 日 (文献 21 から引用)